Rotary 高田ロータリークラブ会報 2022～2023年度

Rotary Club of TAKADA Report

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

再生・新生・共生

高田ロータリークラブ
今年のスローガン

ロータリーを楽しもう！
夢と誇りをもって

イマジン
ロータリー

2022-2023年度
国際ロータリー会長　ジェニファー・ジョーンズ
第2560地区ガバナー　髙橋 秀樹
高田ロータリー会長　髙橋 正彦
幹事　飯塚 宏佳

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL(025)526-3288　FAX(025)526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ･セレッソ TEL(025)526-3111

広報・会報・雑誌委員会：
伴　長門・齋藤俊幸・藤林陽三・出澤英則

第 15 回例会　11 月 11 日(金)　No.15

会 長 挨 拶　●髙橋正彦

皆さんこんには。
午前中に健康診断を受けられた方、大変ご苦労様でした。

先日 10 月 29 日清水ロータリークラブ 70 周年式典に 15 名の会員の皆さんと参加をしてきました。参加されました会員の皆さん大変ご苦労様でした、そしてありがとうございました。

私が驚いたのは、記念式典・演奏会にロータリアンの家族・会社の社員と家族の参加でした。家族・社員にロータリー活動を理解してもらわないと一般市民に活動を理解してもらえない、そして家族・社員への感謝の気持ちでの招待だそうです。私たちも見習うべきところがあるなと思いました。

また、祝賀会等を通じて、多くのロータリアンと親睦を深めることができました。そして、清水 RC 会長の柿澤様より、豪雨災害の支援金をいただき大変ありがとうございますとの、感謝のお言葉をいただきました。

さて、13 日は第 2560 地区本年度の地区大会です、前年度同様に Web での参加となります。当クラブは高田ターミナルホテルでの参加となります。よろしくお願いします。

ここ最近、コロナ感染者が増えて来ています。新潟県では昨日は 1744 名の感染者が出ています。今後感染者が増えるような気がします。そしてインフルエンザも心配されます。先日ニュースでコロナとインフルエンザに同時に感染した人がいると報道がありました。手洗い・うがい・マスク等感染予防をして感染しないよう注意してください。

本日の卓話は、上越教育大学の元学長で当クラブの元会員でもあられ、現在は名誉教授の佐藤芳徳様です。演題は「日本の湖」です。ご清聴お願いします。

出 席 報 告

出席率　97.92%

メイクアップ

髙橋正彦君・飯塚宏佳君・橋本眞孝君・遠藤　巌君・大谷光夫君・羽深耕時君・本山秀樹君・鈴木陽一君・橋詰敏一君・大島　誠君・霜村　浩君・中田　正君・細野　仁君・吉田　巧君：10/29 清水 RC 創立 70 周年記念式典
本山秀樹君：11/10 糸魚川 RC 公式訪問
髙坂光一君：11/8 三条北 RC、11/10 越後春日山 RC

ニコニコBOX

大島　誠君：この度　文化庁から、宇喜世が「食でつながる日本の文化」として認定を受けました。全国で４つの料亭が認定されました。これを励みにとして、建物と料亭文化を後世につなぐべく一層の努力をいたします。

幹事報告

会報№14、地区大会冊子、ロータリーの友 11 月号
回覧物：ガバナー月信 11 月号、グレートジャーニー講演会のご案内、未来応援奨学金にいがた寄付金募集
報告　：地区大会について、11/16 合同例会、11/18 振替休会日、11/25 祝日振替休会日、赤い羽根共同募金について

委員会報告

親睦委員会：11 月お誕生日　各お祝い

お誕生日

ご結婚記念日

卓話

「日本の湖」

国立大学法人上越教育大学名誉教授　　**佐藤　芳徳　様**

湖とは、水深が 5m 以上で、湖底に藻などが生えていないものを指すとされるが、厳密な定義はない。また、ダム湖などで水深が大きく、面積が広いものもあるが、それは人造湖として自然の湖と区別されることが多い。日本には、多種多様な湖が存在し成因も様々である。日本の湖のうち、成因の異なる湖について、比較的面積が大きいものを紹介する。

サロマ湖は、オホーツク海に面した広大な海跡湖で、塩分濃度は海水とほぼ同じである。摩周湖は、火山のカルデラに湛水した湖で、湖岸は急峻な崖で顕著な流入河川も流入河川もない。中禅寺湖は、男体山の活動による堰止湖で複雑な形をしている。湯釜は、火口湖で独特の湖色は水中の微粒子による。諏訪湖は、糸魚川静岡構造線上の構造湖あるいは断層湖である。琵琶湖は、日本最大の湖で、世界でも有数の古い湖である。構造盆地に湛水した湖とされる。池田湖は、九州最南端にあるカルデラ湖で、海面下の深さが約 167m もある。

以上のように、日本には成因が異なる多数の湖が存在する。また、面積、容積、湖面標高など、全ての湖が異なっている。言い換えれば、それぞれの湖が個性を有している。また、水資源としての利用、水産資源、観光など様々な形で人間社会とかかわっている。近年は、環境変化のモニタリング等、新しい役割も増えてきた。それぞれの湖の個性を理解し重視することは、教育において子どもの個性を理解しそれを育むことに似ている。